

TOPICS 1 対感染症効果をPR 銅製品展示場オープン

日本メディカルGPO(株)は昨年12月5日「感染症対策銅製品展示場」をオープンした。同社は医療施設への銅製品導入を推進する活動を行っており、展示会を通じて医療関係者に銅の殺菌効果を知ってもらい狙いがある。展示場には約100品目の銅製品が展示され、銅を用いたベッドで実際の病棟を再現するなど、来訪者がイメージしやすい工夫されている。展示場は都電荒川線「宮ノ前駅」から徒歩一分。一部製品は販売も行っている。



TOPICS 2 日本橋に緑陰の新スポット 福德神社新社殿が完成

五穀豊穡を願う稲荷神社として1100年の歴史を持つ東京・日本橋福德神社の新社殿が昨年10月完成した。戦後、境内の敷地を失い、ビルの屋上や居酒屋の一隅など度重なる数奇な移設を経ての再興となった(本誌前号カバーロマンで銅センター宮川会長がご紹介)。

周囲に鎮守の森も作られることになり、ビジネス街の新たなパワースポットとなる。計画を進めた三井不動産(株)は、「人々の憩いの場として日本橋再開発を盛り上げたい」としている。新社殿には銅板葺き屋根が採用され、古式ゆかしい落ち着いた境内を演出している。

最近では三井不動産のTVコマーシャルにも登場し、日本橋に異彩を放っている。



TOPICS 3 手元でキラリ銅合金製“ねじ指輪”の輝き「町工場リング」お披露目

宝石の代わりに“ねじ”を飾った新しい指輪が誕生した。「大田区町工場リング」を制作したのはデザイナー・田添かおり氏。本体部分にねじ穴加工がされ、石の代わりに“ねじ”そのものを締めつけ、固定する。“取り外しできる実用性”が最大の特徴である。大田区の町工場を盛り上げ広めていきたいという願いを込め、名称に「大田区」と入れた。“ねじ”の種類は多彩で、「たくさんの組み合わせを楽しんでほしい」。製作に当たった(有)矢澤製作所営業部部長 矢澤洋平氏は、「指輪以外にもこの技術をさまざまなフィールドに広げていきたい」と語る。販売に当たり、リング本体が数千円、パーツのねじは数百円とお手頃な価格に設定する予定だ。



制作者 田添かおり氏



編集後記	約3年間、計6号の銅誌発行に携われた竹中俊一氏に代わって、この号より編集デスクを引き継ぎました。今まで広報にはまったく関わりなく務めてきましたので不慣れな点が多いですが今後お付き合いいただければ幸いです。	引き継いだ多方面の人脈を大切にしつつ、日本銅センターの使命であるPR活動や銅需要の喚起に貢献できるような誌面にしたいと思いますのでご指導のほどよろしくお願い致します。	情報発信委員会
	編集デスク 森川 純一(日本銅センター)		

(委員長)磯部剛(古河電気工業(株))
 (委員)鉱山/田中友一郎(三菱マテリアル(株))、
 鏡原俊一(バンパシフィック・カップバー(株))、
 永田禎彦(日本銅業協会)
 伸銅/植木隆之((株)神戸製鋼所)、
 谷敬三((一社)日本伸銅協会)
 電線/吉村志登美((株)フジクラ)、
 大木啓一((一社)日本電線工業会)、
 ((一社)日本銅センター)和田正彦、幸洋二

NEWS 1 日本銅センター創立50周年を迎える 一記念式典を開催

日本銅センターは、昨年11月11日、東京・コートヤード銀座東武ホテルで、創立50周年式典を開催した。

会員である日本銅業協会、(一社)日本伸銅協会、(一社)日本電線工業会の加盟企業や賛助会員、経済産業省からの来賓など約130人が出席した。銅の用途開発や広報活動、海外銅業界団体との連携など、多岐にわたる50年の歴史を振り返り、節目を祝った。

日本銅センターは、生産・加工・消費を通じた技術研究開発の一体化による銅産業の発展を目的に1964年11月に発足。以来さまざまなフィールドで普及啓蒙・用途開発を進めてきた。

開会のあいさつに立った宮川会長は、銅需要自体は漸減してきたものの、国際銅協会(ICA)のファンドも活用し、今後も技術開発を進めていきたいと語った。

この後、50年の足跡を映像で振り返った。さらに、「JX日鉱日石金属の銅資源確保の歩み」と題して、JX日鉱日石金属(株)執行役員 久保進氏が、また「銅および銅合金の色とテクスチャー」と題し、近畿大学次世代基盤技術研究所研究員 米原牧子氏が特別講演を行った。

祝賀パーティでは、来賓としてICAアジア担当のリチャード・クー氏、経済産業省大臣官房審議官 谷明人氏から祝辞をいただき、吉田政雄副会長の乾杯の音頭で懇親に移った。参加者は、それぞれの立場からこの50年を振り返っていた。

なお、近々「50周年記念誌」を刊行予定である。



開会のあいさつを行う宮川会長



特別講演 久保進氏



特別講演 米原牧子氏



映像で50年を振り返る

懇親会でー

懇親会でー

2015年ICAプロジェクトの概要

ICA(国際銅協会)は、予算(会費)削減に伴う大幅な体制変更を決定し、本年度からは新規用途開発を減らして銅需要拡大に影響度の大きい既存のマーケットに集中する方針を打ち出しました。その結果、日本銅センターは、2015年度ICAから約60万ドルのファンドを受けて下記4つのプロジェクトを行う予定です。

- ◆ 導体サイズの適正化(電線サイズアップ)
ECSO (Environmental and Economical Conductor Size Optimization)の普及、国内規定への導入及び国際標準化を図ります。
- ◆ 次世代冷媒に最適な高性能細径銅管の開発
温暖化係数の低い次世代冷媒に対して優れた性能が得られる細径内面溝付銅管を開発し、熱交換器の小型化・高性能化を図ります。
- ◆ 高効率モータ及び機器の普及促進
CMR (Copper Motor Rotor)を初めとして従来品よりも銅の使用量の多い高効率機器の普及促進を図ります。
- ◆ 志津川湾への銅合金製魚網の設置
震災で大きな被害を受けた宮城県志津川湾で銀ザケ養殖を復興させている養殖業者が、ASC(水産養殖管理協議会)認証を得るためのサポートとして銅合金製魚網の導入を進めます。